
平成 31 年

2月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

平成31年2月の普及活動状況ダイジェスト版

新たなブランドづくり

下呂農林■エゴマ 搾油所にて栽培・加工研修会を開催～6次産業化チャレンジ研修

2月22日、先月オープンした飛騨小坂あぶらえ生産組合の搾油所にて、栽培・加工研修会が開催され組合員20名が出席した。

この研修会は、搾油機を設置した組合に対し、衛生管理方法に関する知識を備えてもらおうと農業普及課が企画した。

当日は、県6次産業化プランナーの永井利明氏を招き「あぶらえ加工事例紹介と衛生管理」と題して講演があり、水分調整の重要性や衛生管理のポイントなど参加者は熱心に聞いていた。

また、中山間農業研究所と農業普及課からは、新品種の特性を元に、排水対策や雑草管理、施肥など単収向上技術について説明を行った。農業普及課では、新品種の栽培だけでなく搾油の品質分析など、種子生産から栽培、加工・販売までの一貫した取り組みを支援していく。



【あぶらえの衛生管理について学ぶ組合員】

飛騨農林■夏秋トマト 飛騨地域夏秋トマトポット耕研修会開催

飛騨地域では試験場で開発されたトマトポット耕栽培が拡大しつつある。今年度、現地実証ほを設けて現地研修等を重ねた結果、新たに4名が栽培するに至り、新規導入者等を対象に施設の準備については場研修を行った。今回は施設導入を進めている飛騨高山高校の先生と生徒も参加し現地を巡回した。

研修会では、施設の設置状況や飛騨版の栽培マニュアルについて中山間農業研究所研究員より説明を受け、育苗や肥培管理について研修した。

苗が3月初めに納品されるため、参加者からは「いよいよ始まるがしっかり準備して収量をあげたい」と強い意気込みが聞かれた。農業普及課では、1ヶ月後に開催する育苗期の研修会で技術確立をすすめる。



【研修会の様子】

多様な担い手づくり

郡上農林■指導農業士 新規就農者集合研修で講話

2月1日、JAめぐみの本店で新規就農者集合研修の最終講義が開催され、郡上指導農業士会の奥村会長が「生産者の心構え」と題して講話を行った。

JAめぐみの主催の当研修は、管内の研修施設等で学ぶ研修生や就農5年目までの農業者を対象に年15回シリーズで行われ、管内3農林事務所の普及指導員等が分担して講義を行っている。

奥村会長は(有)ひるがのラファノス代表取締役として、だいこんを中心とした野菜生産や農産加工の経営を行っているが、当日は建築業から転身して農業生産法人を立ち上げた体験などを踏まえ、人間関係の大切さ、チャンスを見過ごさないこと、野菜の種だけではなく将来につながる種を播くことの重要性等について話された。

農業普及課では、今後とも指導農業士の活動や新規就農者研修に対する支援を行っていく。



東濃農林■新規就農者 農業担い手証書を交付

東濃農林事務所では、岐阜県就農支援センターでの研修を終え、昨年6月に瑞浪市で就農し、冬春トマトを生産している新規就農者に対して、2月1日、農業担い手証書交付式を開催した。

交付式は新規就農者の栽培ハウスで行われ、瑞浪市、JAとうと、東濃農林事務所の関係者が出席し、東濃農林事務所長から担い手証書を交付するとともに、関係機関で激励を行った。

新規就農者からは、「ここまでたどりつけたのは関係者の協力のおかげ。トマト栽培を通して地元瑞浪市を盛り上げられるよう努力を続けたい。」と力強く意気込みが述べられた。

農業普及課では、安定した経営ができるよう、栽培面と経営面で支援を続けていく。



【担い手証書の交付】

売れるブランドづくり

岐阜農林■いちご GAP現地調査実施

2月19日、JAぎふ岐阜市いちご部会の会員24名（合渡、木田支部）を対象に、独自GAP現地調査を実施した。

GAPに取り組む会員の意識は年々高まっており、改善事項は少なくなっているものの、農薬の飛散・漏出防止のための対策など不十分な項目も見受けられた。

また、部会役員2名を対象に、県GAPの農場管理基準項目に基づき、試験的に現地調査も実施した。

今後、農業普及課では、調査結果を取りまとめ、改善が必要な項目の対策などを部会役員やJA担当者とともに検討することとしている。



【GAP現地調査の様子】

中濃農林■さといも 全国農業システム化研究会での里芋機械化実証の発表

農業普及課は「全国農業システム化事業」を活用し、里芋の収量増加・品質向上、省力化に向けた機械化体系（溝掘り、畝内施肥、生分解性マルチ上への培土、里芋分離機）に取り組んできた。

2月19日、東京都で全国農業システム化研究会主催の最終成績検討会が開催され、これまで取り組んできた実証結果を発表した。溝掘り作業と生分解性マルチ上への培土により、L、2Lサイズの高値で販売できる丸芋数が増加した成果と、里芋分離機は調整作業の省力化に外せない機械であり、分離率の向上に向けて複数回検討会を開催し、生産者の意見を多く聴き取ったことについて説明した。

参加者からは、栽培体系や分離機の開発状況等、多くの質問が出され、関心の高さがうかがえた。農業普及課では、今後も機械化体系の確立・普及に向けて支援していく。



【発表の様子】

可茂農林■稲作法人 地力に即した水稻施肥試験検討会

2月8日、御嵩町内において、平成28～30年度に実施した水稻施肥試験の検討会を開催した。

農業技術センターと連携したハツシモ岐阜SLの実証試験は、地力に即した施肥を行い、一定の収量確保と食味改善を図る目的で実施したものであり、可児御嵩エリア全体の食味改善につながる良好な結果が得られた。

3年間の試験結果を受け、対象法人からは平成31年産から実践に取り組んでいきたいとの報告があった。

また、JAと連携して実施した業務用米「あきさかり」や新品種「ほしじるし」の試験結果なども報告され、関係機関と情報共有する意義ある場となった。



【検討会の様子】

農業普及課は、J Aと連携しながら引き続き経営体の支援を行うとともに、次の水稻暦の改訂を支援していく。

革新支援センター■飛騨牛 飛騨和牛生産協議会女性部研修会

2月25日高山市のひだホテルプラザにおいて飛騨和牛生産協議会女性部研修会が開催され、農業経営課の革新支援専門員が「大切な子牛を病気から守るためのヒント」と題して牛白血病の感染防止対策について講演を行った。

牛白血病はリンパ球の増加等を示す牛特有の病気で、国の調査では国内で飼育される牛の35%が感染しているといわれており、最近全国で清浄化のとりくみがはじまっている。

研修会では牛白血病の特徴や具体的な感染予防対策等について実例を挙げて説明を行った。研修後の質疑応答では対策等について数多くの質問があり、本病に対する農家の関心の高さがうかがわれた。

飛騨牛の輸出量が増加する中、県には、畜産農家への高度な知識技術の普及を通じて健康な飛騨牛づくりを支援する体制を一層強化することが期待されている。



【関心が高かった研修会】

住みよい農村づくり

西濃農林■普及指導活動

平成30年度西濃農業の活性化をめざすセミナー～普及・営農指導活動成果報告会～を開催

西濃農林事務所は2月25日、農業者及び関係者127人の参加を得て、J Aにしみの、西南濃農業普及事業推進協議会、6次産業化サポートセンターと共催して「西濃農業の活性化をめざすセミナー」を開催した。この中で、新規就農者激励会として、今年度海津市の県就農支援センターでの研修を修了し、トマト産地の担い手となった2人の新規就農者に「清流の国ぎふ農業担い手証書」及び記念品の贈呈を行った。

報告会では、農業普及課から「梨産地に風を起こす」と題して、大垣市での梨塾開催による梨農家の担い手育成と栽培新技術（根圏制御栽培法）の実証と普及、「野菜生産における天敵昆虫の活用と普及」と題して、露地野菜及び施設野菜での天敵昆虫利用効果と留意点、I P M技術の推進について発表した。また、営農指導活動報告として、J Aにしみのの2人の職員から「加工・業務用キャベツ安定栽培方法の確立に向けて」と題して、キャベツの安定生産に向けた活動成果を聞いた。

講演会では、6次産業化プランナーから「農産加工の衛生管理とG A Pとの連動」として、食の安全・安心を向上するための仕組みづくり、手法について説明を受けた。さらに、西濃農業共済組合から共済制度の見直しに関する情報提供もあり、盛り沢山の内容となった。

農業普及課は、セミナー全体のコーディネートを行った他、2つの活動事例発表を通して、活動成果を報告した。



【写真上：新規就農者に期待を込めて（新規就農者激励会）

写真下：活動成果を発表する普及指導員】

揖斐農林■いび農業活性化研修会 元気な揖斐の農業をめざして

揖斐農林事務所及び揖斐郡農業振興協議会は、2月22日に「食、農、環境が一体となった元気な揖斐の農業を目指して」をテーマに「いび農業活性化研修会」を開催し、管内の農業者、関係機関等約120人が出席した。農業普及課からは「揖斐地域のG A Pの取組み」と題し、G A Pの意義や導入のポイント、県G A Pの取組み状況や具体的な支援事例等について説明した。講演では、I

CTスマート農業実践事例として「農業IT管理ツールと改善を活用した取組み」と題し、有限会社鍋八農産の八木輝治代表取締役を講師に、水稻経営における見える化や効率化などの改善について事例を交えて説明があった。また情報提供として、揖斐農林事務所農地整備課から「農業基盤整備促進事業（暗渠排水）」、西濃農業共済組合から「農業共済制度の見直し」についての説明があり、今後の営農活動を行う上で興味深い内容も多く、参加者は熱心に聞き入っていた。

また、担い手リーダーやかき振興会女性部等の活動を紹介するパネル展示や、大野の柿を使用した「柿パウンドケーキ」の試食を実施し、多くの方に管内の活動を紹介するよい機会となった。



【活動事例紹介の様子】



【講演の様子】



【加工品等の展示】